

乳癌骨転移を無症状で診断することの効果に関する研究のお知らせ

帝京大学医学部附属病院では以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間：2022年9月10日～2023年12月31日

〔研究課題〕

乳癌骨転移を無症状で診断することの効果

〔研究目的〕

乳癌の骨転移を早期発見することによる生存期間延長効果の明確な証拠はないため、骨の定期検査は推奨されていません。ただし、早期に発見することで、ビスフォスフォネートやデノスマブの使用、または放射線治療や手術により適切に治療することで症状発現を遅らせ、生活の質の向上が期待できると考えられます。そこで、骨転移を無症状で発見した患者さんと有症状で発見した患者さんを比較検討し、無症状で発見したことによるメリットを明らかにします。

〔研究意義〕

骨転移を無症状で発見することにより生活の質や予後の改善が得られることが確認される可能性があります。

〔対象・研究方法〕

2007年7月から2021年4月までの期間に帝京大学医学部附属病院で治療した転移再発乳癌で最初に骨に転移した患者さんを対象とします。診療録(臨床データ、画像データ、病理組織所見等)を参照しデータを解析します。

〔研究機関名〕

帝京大学医学部 外科学講座

〔個人情報の取り扱い〕

個人情報に十分配慮し、情報の加工を行います。研究終了時に情報を帝京大学臨床研究センターに提出し、同センターにて10年間保管の後に廃棄します。

対象となる患者様で、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願ひ申し上げます。

問 い 合 わ せ 先

研究責任者：氏名 池田達彦 職名 帝京大学医学部 外科学講座 講師
所属： 帝京大学医学部 外科学講座／帝京大学医学部附属病院 外科
住所： 東京都板橋区加賀 2-11-1 TEL:03-3964-1231(代表)